

台風15号

災害発生日●平成13年9月8日～12日  
主な被災地●関東・東北・北海道地方

# 首都圏を直撃した大雨台風 多摩川など12河川で危険水位超える

発達した雨雲を伴って北上を続けていた台風15号は、9月11日午前9時30分頃、神奈川県鎌倉市付近に上陸。関東地方の山沿いを中心に大雨をもたらした。長時間にわたって降り続いた雨により、各地では土砂災害や河川の増水による被害が続出。多摩川下流では観測史上4番目となる水位を記録するなど、12の河川で危険水位を上回る数値が観測された。

## 関東の山沿いで大雨、各地で土砂災害が相次ぐ

9月4日午前9時にマリアナ諸島の東海上に発生した台風15号は、発達しながら北西に進んだ。10日には北東に向きを変えて、ゆっくりとした速度で東海地方沿岸に接近。11日早朝には伊豆半島をかすめて相模湾に入り、午前9時30分頃、神奈川県鎌倉市付近に上陸した。台風が直接関東地方に上陸したのは平成元年8月の台風13号以来であった。

鎌倉に上陸した台風は昼前に東京都心部を通過し、午後3時、茨城県中部に達したところで暴風域は消滅した。その後、茨城県北部から太平洋に抜け北東に進んだ台風は、12日午前6時に北海道根室市沖の海上で温帯低気圧となった。

台風は発達した雨雲を伴っていたため、静岡県や長野県、関東地方の山沿いなどでは、9日頃から風雨が強まり、また台風15号の速度が遅かったため、台風の接近に伴って近畿から北海道までの広い範囲で長時間にわたり雨が降り続いた。静岡県中伊豆町の天城山では、11日午前7時からの1時間降水量が72mmという猛烈な雨となった。日降水量が特に多かったのは静岡市の梅ヶ島で、10日に595mmを記録した。降り始めからの総降水量は、栃木県日光市日光で895mm、神奈川県箱根町箱根

で766mm、埼玉県秩父市浦山で741mm、東京都奥多摩町小河内で639mmを記録した。台風15号は風も強く、伊豆大島では11日午前7時10分に最大瞬間風速42.9mを記録。東京都心の大手町でも、11日午前11時前に34.1mを観測した。また、東京都多摩地区では台風の影響とみられる竜巻も発生した。

この台風では大雨による土砂災害が各地で相次いだ。長野県軽井沢町茂沢の山中では10日午前11時20分頃、民家の裏の崖が崩れ、炭焼き小屋が土砂に呑み込まれた。この家に住む夫婦2人が小屋を確認に行ったところ、2度目の崖崩れが発生。2人とも土砂に生き埋めとなり死亡した。現場では崖が長さ約30m、幅約4mにわたって崩れていた。また、軽井沢町発地地区では崖崩れにより別荘3棟が全壊したが、幸い人的被害はなかった。

群馬県では10日午後4時頃、富岡市上丹生の上信越自動車道下り線で、道路わきの斜面が幅約13m、高さ約10mにわたって崩落。斜面で点検をしていた作業員3人が生き埋めとなった。3人は救出されたが、そのうち2人が後に死亡した。

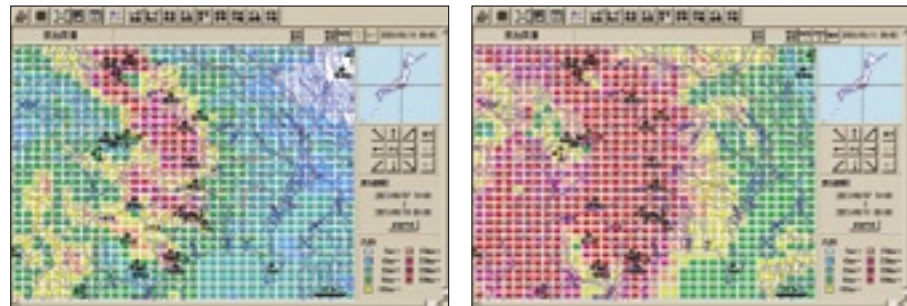
山梨県では10日午前、大月市大月町でテニスコートの裏山が崩れ、駐車場に止め



2人が生き埋めとなった現場では懸命の救出作業が行われた(9月10日、長野県軽井沢町) [写真提供/共同通信社]

てあった車やテニスコートの一部が土砂に埋まった。また、丹波山村の奥秋地区でも沢から土砂が流出し、民家にも被害を及ぼす恐れがあったため、64世帯159人に避難指示が出された。

こうした土砂災害は、12都道府県で計34件(崖崩れ27件、地滑り3件、土石流等4件)に上った。このほか、台風15号では屋根から修理作業中に転落して1人が死亡し、鉄砲水などに呑み込まれるなどして3人が行方不明となった。



関東地方の9月7日14時から10日9時まで(左)と11日9時まで(右)の累加雨量。10日から11日の間に関東各地の山沿いで軒並み300mmを超える雨量が観測された [FRICS 端末画面を一部加工して掲載]



[左]濁流が激しく荒れ狂う多摩川(9月11日、羽村取水堰付近) [写真提供/京浜工事事務所]  
[上]下流部で観測史上4番目となる水位を記録した多摩川。神奈川県川崎市幸区では床上浸水4戸を含む96戸が浸水した(9月11日、神奈川県川崎市幸区) [写真提供/読売新聞社]



激しい雨と強風のため横転したトラック(9月11日、横浜ベイブリッジ) [写真提供/毎日フォトバンク]



羽田空港トンネルも浸水し、バスやトラックなど27台が立ち往生した(9月11日、東京都大田区羽田空港) [写真提供/朝日新聞社]



大田区からの要請で排水ポンプ車も出動。内水排除作業が行われた(9月11日、東京都大田区田園調布) [写真提供/京浜工事事務所]

## 31水系69河川で警戒水位を突破、12河川で危険水位を上回る

台風による長時間の雨で、各地では河川が増水。国が管理する河川では31水系69河川で警戒水位を超え、うち多摩川など12河川で危険水位を上回った。こうした川の増水に伴い、国や水資源開発公団が管理する32のダムで流入する水を貯留し、洪水調節が行われた。

群馬県では利根川水系の鐮川が10日朝から増水し危険水位を超えた。浸水の恐れがあったため、夕方までに流域の富岡市、吉井町で計85世帯1278人に避難勧告が出された。水嵩の増した鐮川の上流では、午後12時30分頃、下仁田町白山で川に架かる赤津橋(長さ約28m、幅約3m)が濁流に流され、中流では富岡市曾木で川に架かる上信電鉄線の鉄橋の橋台が傾くなどの被害が出た。

長野県では信濃川水系の千曲川が増水し、10日午前7時には警戒水位を超えた。このため流域の上田市、白田町、丸子町の3市町では10日午後から夜にかけて計88世帯259人に避難勧告が出された。水嵩の増した千曲川では、11日午前8時45分

頃、上田市と丸子町に架かる大石橋(長さ約190m、幅約3m)で橋脚1基が傾き、橋が折れ曲がる被害が出た。この橋は8月から橋脚の補強工事が進められ、通行止めとなっていたために人的被害はなかった。

台風15号の直撃を受けた首都圏では、多摩川上流域で激しい雨となり、中流の東京都調布市石原で警戒水位A.P.4.30mを超え、11日午後1時には水位はA.P.4.89mに達した。下流の大田区田園調布では11日正午頃、危険水位A.P.7.00mを超え、流域には午後12時55分に洪水警報が発令された。その後、さらに水嵩は増して、11日午後2時には危険水位を大きく上回るA.P.7.63mを記録した。これは観測史上4番目となる水位であった。

多摩川の増水で、下流域の神奈川県川崎市幸区戸手では堤外保全区域にある民家11日には川の水嵩が増して床上浸水4戸を含む96戸が水に浸かった。さらに、川の水位の上昇で、堤防の内側では雨水が排水されなくなって内水氾濫の恐れもあった

ため、大田区田園調布5丁目地先では京浜工事事務所の排水ポンプ車による排水作業も行われた。

多摩川河口付近では、東京湾が満潮となる11日午前11時頃に台風が最接近。高潮に対する警戒が続けられた。河口左岸に位置する羽田空港では午前11時前、海水が防波堤を超え、空港の地下を走る環状8号線の「羽田空港トンネル」に浸入。長さ700mのトンネル内では27台の車が水に浸かった。浸水した海水の深さは約80cmに達していたが、けが人や逃げ遅れた人はいなかった。

この台風の影響で首都圏の交通網も混乱した。10日、長野新幹線は平成9年の開業以来初めて終日運休となり、山形新幹線も福島—新庄間で終日運転を見合わせた。また、東海道新幹線は深夜に一部の区間で一時運転を見合わせ、東京駅と新大阪駅では終電がなくなった後に到着した乗客のために新幹線車両を仮眠用に開放。約60人が車内で一夜を明かした。

東北地方は台風の影響を受けることはなかったものの、台風の接近で11日から12日朝にかけて太平洋側を中心に断続的